

News Letter 4



保育研究センター

〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

TEL 0538-37-0191(代表) FAX 0538-36-8800 <https://www.ssu.ac.jp>

学窓便り

4年生がお弁当のおもちゃと食育かるたを作りました

保育実践演習で、食育に関する教材やおもちゃ作りをしています。2023年度も、お弁当型のおもちゃと、食育かるたが出来上がりました。

お弁当型のおもちゃ作成は、今年で3年目になります。食育の指導や遊びに使うことのできるお弁当型のおもちゃは、栄養バランスを考えて献立立案するところから始めます。赤・黄・緑の食べ物があるか、や、どのような材料を使えばいいかなど、学生同士で互いにアドバイスし合って、作成しています。

食育かるたの作成は、今年で2年目になります。「を」と「ん」を除いた44の仮名について、学生が手分けし、読み句をまず考えました。保育の現場では、他職種との協働が欠かせません。そこで作成した読み句は、管理栄養士の方に監修していただいています。そのあと、取り札の絵を学生が手分けして描いています。今回も、作成したかるたは、小学校にて実際に遊んでもらいました。



ようこそ！絵本の世界へ

～『くれよんのくろくん』の世界を造形で再現～

子どもを絵本の世界に誘う等身大のくれよんくんたち。経営学部の保育士養成課程4年生11名が制作しました。

保育者として必要な知識や技術を通年で振り返る授業「保育実践演習」の造形表現では、身の回りの生活素材を活用した大型の立体物の制作に挑戦しました。素材は不要となった段ボール箱や梱包紙。手強い材料と格闘しながら、材料の特性を理解し、重さや大きさに耐えうる構造設計や加工技術を学びました。

11色？人？の表情豊かなくれよんくん。不思議と制作した学生に似て、とても個性的なんです。くれよんくんを案内人に、子どもたちが自由にどこまでも想像の世界を冒険できるようにとの学生の思いがたくさん込められた作品です。



遊んで伸ばす“おもちゃ製作”

「障がい児保育」の授業では、2023年度も“おもちゃ作り”に取り組みました。今回は、事前に児童発達支援センターの子どもの様子を見学させていただき、イメージを膨らませました。そこで、センターの先生から「手指の動きが未発達な子が多い」という話をお聞きして、大きなボタンやひもを使って連結して遊べる作品を選ぶ学生が多くいました。さて、今年度はどうなるかな…楽しみに。



『友だちのこまったがわかる絵本』

おもしろい絵本を見つけました。友だちが「あれ？」「どうして？」と思う行動をしたとき、その友だちの思いや気持ちを考えられるヒントが、教室や体育館、図工室などの場面別に描かれています。人それぞれの“ちがひ”や“個性”をどう考えるか、子どもだけでなく大人にも手に取ってほしい、練習問題のような一冊です。



編・著 WILL子ども知育研究所
監修 赤木和重
金の星社

保育士の“たまご”のおにいさん・おねえさんと一緒に遊ぼう

～保育士養成課程の学生が「絵本館」を「蒼樹祭」で企画開催～

2023年11月5日(日)、「蒼樹祭」(大学祭)が4年ぶりに制限なしで開催されました。保育士養成課程の学生を中心に「絵本館」を企画し、多くの方にご来場いただきました。

「保育士の“たまご”のおにいさん・おねえさんと一緒に遊ぼう」をコンセプトに、図書館1階中央スペースを会場として実施、内容は大型絵本の読み聞かせ、ダンス・ダンス・ダンス、さんだいおんがくとどけ隊(特別出演・入江ゼミ)です。また、自由にお絵描きができるコーナーや折り紙コーナーを準備し、繰り返し来場する幼児の皆さんとその保護者もいて、楽しい時間を過ごしました。来場者数は、幼児・小学生50名、保護者64名でした。

午前10時から午後3時の開館時間中に「絵本館シアター」を3回開演しました。司会進行の学生は、「事前に練習を繰り返したものの当日までドキドキでした。実習に向けて良い体験になり、自信ができました。」と感想を述べてくれました。また、得意な絵本の読み聞かせやパネルシアターを実演した学生は「充実した時間だった。」と話していました。そして、幼児と一緒にダンス・ダンス・ダンスを踊った1年生は「とにかく楽しかった！保育のレパートリーが増えました。」という感想でした。

保育士養成課程の学生1～3年生が主体的に企画運営し、さんだいおんがくとどけ隊は入江ゼミ4年生の特別出演、地域福祉論(宮地准教授担当)履修者のボランティア参加もあり、保育士養成課程の縦の繋がりを醸成する機会となりました。



絵本の読み聞かせ



パネルシアター



ダンス・ダンス・ダンス「アキレスケンタウルス体操」(左)と「エビカニクス」(右)



さんだいおんがくとどけ隊



「第3回 ホームカミングデー」～卒業生を迎えて～

2023年11月、今年度も「蒼樹祭」の日に「第3回 ホームカミングデー」が開催されました。保育士養成課程の卒業生7名が参加し、久しぶりに友人、教員と和やかな時間を過ごすことができました。参加者らは社会人としての経験を重ね、仕事にやりがいを感じ、充実した生活を送っている様子がうかがわれました。

同時に、卒業生支援、並びにリカレント教育の重要性が高まる中、本学の「ホームカミングデー」においては、幼稚園教諭免許取得のためにサポートを行うなど、積極的な役割を担っています。今後も卒業生のキャリアアップ、スキルアップの支援にとどまらず、より豊かな人生のために継続的な学びをサポートしていきたいと考えています。



2023年度 保育実習(施設)連絡協議会

保育士養成課程では、2023年11月2日(木)に保育実習(施設)連絡協議会を開催しました。この連絡協議会は、質の高い保育者養成に向けた実習教育を展開することを目的に、実習現場の先生方をお招きして、保育所と施設を隔年交代で実施しています。今年度は、児童養護施設や障害児入所施設から3名の実習担当の先生にお越しいただきました。

まず、はじめに学部長から学生の実習にあたりご指導をいただいていることへのお礼の挨拶があり、次に本学における保育実習Ⅰ(施設)およびⅢ(施設)の概要説明、意見交換のあと、子ども教育棟の見学などを行いました。

意見交換では、事前指導で発達障害のある子どもへの理解を深めて実習にきてほしいという意見や、本学でのパソコンを用いた記録作成や、実習先からの評価の取り扱いの状況を知りたいといった質問が出されました。また、先生方からは実習生の個性に応じた実習教育に努力したいなど、現場の先生方の熱心が伝わり、より充実した実習教育を共に目指す有意義な時間となりました。学生の皆さんには、これから実習先で出会う多くの子どもの先生方から沢山の学びを得てきてほしいです。お忙しい中にもかかわらず出席頂いた先生方、ありがとうございました。



卒業式で保育士養成課程の学生が表彰されました

(一社)全国保育士養成協議会 会長表彰 & 卒業時表彰 学部長賞

森下 理子さん

保育士養成課程では、自分の好きなことや得意なことなど、自分自身について知ることができました。それは授業の中で保育士養成課程の同級生と共に技術を磨いたことで分かったことだと思っています。特に、卒業製作の実物大「くれよんのくろくん」の製作は自分の好きや得意を活かしたり、自分とは異なった好きや得意を持っている友人から技術を教わって作ったもので、切磋琢磨し合った同級生との作品が完成した時の達成感は忘れられません。また、先生方は保育や進路のことなど多岐にわたって相談にのっていただき、納得して1つ1つ進めることができました。

コロナ禍から始まった私の学生生活でしたが、「まずやってみる」ことを軸にして多くのことに挑戦し、サークル活動や保育の勉強など、充実した学生生活を送ることができました。



将来の夢として、子どもたちの遊び場を作りたいと考えています。これまでの知識とこれからの保育士としての経験を活かし、自由に遊ぶこともでき、指導者と一緒に遊びたい子は遊べる自由な空間を用意したいと考えています。

2023年度 保育士養成課程卒業生の研究テーマ

「静岡県の病棟保育の現状—小児科・小児外科のある病院を対象とした質問紙調査から—」	厚木 希瞳
「赤ちゃんポストに対する大学生の認識」	高橋 呉波
「保育における重大事故に関する研究」	西岡 那奈子
「親子で使うICT機器利用のルール—乳幼児の日常におけるICTとの付き合い方から考える—」	長田 若菜
「幼児期における運動遊びの現状と課題—H認定こども園の調査から—」	森下 理子
「多様化に向けての日本の保育・幼児教育の在り方—海外との比較調査から—」	北原 知佳



研究室訪問



入江真理 教授

専門分野: リトミック、幼児教育(表現・音楽)

今までの研究、これからの研究 「これまでと今後の研究について教えてください。」

リトミック指導の過程でその奥深さに触れ、リトミックの教育方法と原理を正しく理解して言葉にする必要性を感じると同時に、乳幼児の音楽教育の立場からリトミックを捉え直したいと考え、研究の世界に足を踏み入れました。

現在の取り組みとしては、多面性をもつリトミック教育の身体運動の側面に焦点を当て、リトミックで体を動かすことによって培われるものとはなにか、研究を重ねています。「『幼児期における身体運動』への実践に資するリトミックについての研究—運動による身体の発達の視点から—」(2020)では、リトミックの創案者であるJ=ダルクロワーズの教育観、とりわけ、子どもの身体教育に関する理念を整理し、運動発達の視点からリトミックにおいて体を動かすことの意義を明らかにしました。

これらの研究と並行して、保育における音楽について実践につながる研究を進めています。「保育におけるリズム楽器の活用に関する研究(2)—保育者がとらえた『子どもがリズム楽器で楽しんでいた活動』場面の分析から—」(2020)等においては、リズム楽器の特徴の一つである可動性が保育者と子どもの表現を広げ、音楽

理解につながる可能性を示しました。

最も新しい研究としては、『『音楽と私たち』(1945)「第3部 思考と自明の理」におけるJ=ダルクロワーズの思想—K」法による検討を中心に—」(2023)において、改めてリトミック教育の理念を問い直しました。リトミックの核心は「音楽—動き—リズム」にあり、創始者であるJ=ダルクロワーズは晩年なお、リトミック教育による明るい未来を期待していたことがわかりました。

ゼミ活動と取り組み

「ゼミではどのようなことに取り組んでいますか?」

保育における音楽表現の実践のため、「さんだいおんがくとどけ隊」として保育所、こども園、病院、児童発達支援センター等で子どもたちと音楽による交流活動をしています。他領域での学びを活かしながら、対象となる子どもの個性や特性に応じたプログラムを企画・実践しています。多様な現場で複数回実践することによって、PDCAサイクルが機能し、学生は実践のためには理論が重要であることを再認識して学びが深まっている様子がうかがわれます。また、これらの現場体験は卒業研究におけるリサーチ・クエッションとなり、「乳幼児が好む楽器の音に関する研究—保育者に対する質問紙調査の検討から—」(2022)等として卒業論文としてまとめるに至っています。

「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」ゼミ・研究室等地域貢献推進事業における地域課題への取り組み、静岡県による「東静岡駅賑わい創出事業」に出展するなど、成果発表の場として地域貢献事業にも積極的に参加しています。インプットのためにアウトプットは非常に重要であり、そうして身に付けた学びは学生の将来につながると考えています。

今関心のあること

「今関心のあることは何ですか?」

リトミックと保育における音楽を中心に据えながら、さらに研究と実践の領域を広げていきたいと考えています。研究においては、社会における音楽の役割に関する研究や実践研究にも力を入れたいと考えています。また、磐田市の文化行政についてもゼミとしてイベント等に参加することから学びを広げていきたいと考えています。



「さんだいおんがくとどけ隊」

東静岡賑わい創出事業「中国と日本のわらべうたの比較研究」



卒業制作展



「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」成果発表
「SPACの中高校生鑑賞事業の成果に関する研究」